

科目名	失語症の展開						
科目名(英)	Deployment of Aphasia						
単位数	1		時間数	45時間		担当者	高津原 直樹
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	言語聴覚士として病院に勤務
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	失語症に関連する検査、評価、訓練について実技演習を通して学び会得する。 前期に習った範囲を含む、失語症全般についての知識を習得する。						
授業形式	講義：△		演習：△		実習：	実技：○	※ 主たる方法：○ その他：△
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標	
	○	○				各種失語症検査の対象、目的、手技、分析方法について説明できる。	
			○	○		標準失語症検査(SLTA)の手技について習熟する。	
	○	○				検査結果から失語症者の問題点を抽出し、訓練目標・計画を立案できる。	
	○	○				代表的な失語症掘り下げ検査について理解し、対象と検査目的を列挙できる。	
テキスト・教材 参考図書	(株)医学書院 標準言語聴覚障害学 失語症学 第3版 (株)新興医学出版社 標準失語症検査(SLTA) マニュアル						
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示
	1	失語症の評価・診断・検査 標準失語症検査(SLTA)の構成と目的、手技、手法					SLTAの下位検査についてそれぞれがどのような検査なのかマニュアルを読んで調べておく(60分)
	2	SLTA I. 聴く					SLTA I. 『聴く』の項目の検査練習(90分)
	3	SLTA II. 話す					SLTA II. 『話す』の項目の検査練習(90分)
	4	SLTA III. 読む					SLTA III. 『読む』の項目の検査練習(90分)
	5	SLTA IV. 書く、V. 計算					SLTA IV. 『書く』、V. 『計算』の項目の検査練習(90分)
	6	SLTAのプロフィール作成、検査結果分析、問題点抽出					SLTA全般の検査練習(90分)
	7	WAB失語症検査、SALA失語症検査					SLTA、WAB、SALA失語症検査について的小テストを配信(5択×10問)
	8	失語症掘り下げ検査(重度失語症検査、TOKEN TEST、失語症構文検査、失語症語彙検査等)					失語症掘り下げ検査全般について的小テストを配信(5択×10問)
	9	コミュニケーション能力の評価(CADL)					CADLを含む失語症掘り下げ検査の検査練習(90分)
	10	失語症治療の理論と技法 失語症リハビリテーションの実際					失語症訓練について的小テストを配信(5択×10問)
	11	SLTA実技試験、失語症者の社会参加(動画) 前期の復習(セミテスト・持ち込み可)					前期からの総復習をしておくこと(90分)
	12	SLTA実技試験 前期の復習(セミテスト・持ち込み可) ※最終回は1コマ					前期からの総復習をしておくこと(90分)
	13						
	14						
	15						
評価方法	定期試験：筆記試験 小テスト：Formsにて計3回実施。これとは別に第11・12回に持ち込み可のセミテストを実施する。 レポート：失語症者の社会参加についてレポート(第11回) 実技試験：SLTAを実施。具体的な方法は授業内で提示						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	○	○				60%
	小テスト		○				5%
	宿題・レポート	○	○				5%
	実技試験			○	○		20%
	セミテスト	○	○				10%
履修上の注意							

科目名	心理測定法											
科目名(英)	Psychological methods											
単位数	1		時間数	15時間		担当者	井上 仁郎					
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験						
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年											
授業概要	ものの見え方、聞こえ方、記憶、そして発達や知能、学力などの人の「心理」を測るとはということなのかを学ぶ。また、心理測定法を言語聴覚療法にどう活用していくのかを考える。											
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△			
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				心理測定の概要を説明できる。						
	○	○				測定値の性質を説明できる。						
	○	○				データ解析方法を列挙し、それぞれを概説できる。						
	○	○				測定の方法を列挙し、それぞれを概説できる。						
テキスト・教材 参考図書	サイエンス社「新心理学ライブラリ13 心理測定法への招待 測定から見た心理学入門」市川伸一 編著 参考文献：プリントにて配布											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	心理測定とは／見え方を測る／記憶実験					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。30分					
	2	心を測るとは	ビネーの知能検査／投影法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。31分				
	3		測定パラダイム／反応時間を計る					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。32分				
	4	測定値の性質	尺度水準／相関と回帰					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。33分				
	5		母集団と標本／信頼性と妥当性					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。34分				
	6	データ解析	検定の考え方					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。35分				
	7	多変量解析	各種の多変量解析					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。36分				
	8	知覚を測る	調整法・極限法・恒常法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。37分				
	9		マグニチュード推定法／評定法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。38分				
	10	認知を測る	再生と再任／学習／判断・推論・問題解決					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。39分				
	11	社会心理を測る	態度測定／ソシオメトリー／情動・気分					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。40分				
	12	発達や知能を測る	知能検査・発達検査・学力検査／行動観察					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。41分				
	13	心理アセスメント	観察法／面接法／心理検査法					授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。42分				
	14	まとめ						授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。43分				
	15	全体のまとめ						授業内容に該当する指定教科書の該当部分を復習しておく。44分				
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合					
	定期試験(筆記)	○	○				100%					
履修上の注意												

科目名	脳性麻痺・後天性障害の展開										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	15時間		担当者	浅田里美・若山 恵				
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	施設および病院にて言語聴覚士として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	脳性麻痺・後天性言語発達障害に対する言語聴覚療法の評価診断および指導・支援に対する知識・技能・態度を修得する。										
授業形式	講義: ○		演習: ○		実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△				
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					脳性麻痺・後天性言語発達障害の指導・支援における言語聴覚士の役割を説明できる。					
	○					脳性麻痺・後天性言語発達障害の評価診断の原則・手続きを説明できる。					
	○	○		○		収集する情報の種類と収集方法を説明し、評価および指導・支援を模擬的に実施できる。					
テキスト・教材 参考図書	建帛社 言語聴覚療法シリーズ12 言語発達障害 3 改訂										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	脳性麻痺の定義と発達を阻害する要因					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	2	脳性麻痺の言語・コミュニケーション評価診断					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	3	脳性麻痺の評価診断演習(バイタル・摂食嚥下・感覚面)					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	4	脳性麻痺の評価診断演習(行動評価・発達評価・まとめ)					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	5	後天性言語発達障害の定義と発達を阻害する要因					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	6	後天性言語発達障害の評価診断演習					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	7	脳性麻痺児・後天性言語発達障害児に対する指導・支援演習					授業に該当する教科書の部分について復習すること(30分)				
	8	まとめ					試験対策のまとめを行う(30分)				
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法											
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験		○	◎				80%			
	小テスト										
	宿題・レポート		◎	○				20%			
	発表・作品										
履修上の注意											

科目名	視聴覚二重障害										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	15時間		担当者	星子 隆裕				
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	聴覚障害および関連障害に関する基本的概念と知識を修得する。										
授業形式	講義：○		演習：		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○					視聴覚二重障害のタイプを列挙しコミュニケーションモダリティを選択できる。					
	○					視聴覚二重障害を持った方の困難さの具体的事例を知る。					
				○		障害を持った方の情意を推し量ることができる。					
				○		フィールドワークを通して、自らの学びを広げることができる。					
	○					情報補償について説明できる。					
テキスト・教材 参考図書	知ってください盲ろうについて										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	視聴覚二重障害の総論					授業を振り返りA4用紙1枚にマインドマップを作成する。				
	2	ビデオ教材学習「社会に生きる」					授業を振り返り、A4用紙1枚にマインドマップを作成する。				
	3	ビデオ教材学習「盲ろうとともに」					授業を振り返り、A4用紙1枚にマインドマップを作成する。				
	4	卒業生講話					授業を振り返り、A4用紙1枚にマインドマップを作成する。				
	5	聴覚障害支援者の講話					授業を振り返り、A4用紙1枚にマインドマップを作成する。				
	6	フィールドワーク準備					フィールドワークのテーマを決め、計画書を作成する。				
	7	フィールドワーク					フィールドワーク報告会に向けまとめる				
	8	報告会					他のグループの発表をまとめる				
	9										
	10										
	11										
	12										
	13										
	14										
	15										
評価方法	(1)レポートを数回実施する。 (2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。成績評価基準は、A(80点以上)、B(70点以上)、C(60点以上)、D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	○	○				70%				
	小テスト										
	宿題・レポート				○		30%				
	発表・作品										
履修上の注意	聴覚系の他の講座資料を振り返りながら受講してもらいたい。 国家試験過去問題から関連問題を探し、開講期間に全問理解すること。										

科目名	リハビリテーション概論										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	30時間		担当者	永江 信吾				
実施年度	2021年度		実施時期	前期		担当者実務経験	病院に言語聴覚士として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	リハビリテーション本来の意味や理念を歴史的背景から学習し、リハビリテーション医療の対象や関わる職種、評価・治療手段を理解する。										
授業形式	講義: ○		演習: △		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				リハビリテーションの理念と概念について説明できる。					
	○	○				国際生活機能分類(ICF)と国際障害分類(ICIDH)の特徴と相違が説明できる。					
	○	○				医療・保健・社会福祉とリハビリテーションの関わり方について説明できる。					
	○	○				リハビリテーションの過程と方法について概説できる。					
				○		グループディスカッションや発表を通して、新たな気づきを得ることができる。					
テキスト・教材 参考図書	教科書:診断と治療社 リハビリテーション総論										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	リハビリテーションのイメージを共有					各自で新たな気づきを追記しまとめる(30分)				
	2	障害について考える					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	3	リハビリテーションの理念と概念、歴史					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	4	リハビリテーションの領域					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	5	廃用症候群・フレイル・サルコペニア					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	6	老化と介護予防					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	7	理学療法士とリハビリテーション					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	8	機能障害の評価法について					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	9	作業療法士とリハビリテーション					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	10	能力障害の評価法について					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	11	国際生活機能分類と国際障害分類					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	12	国際生活機能分類と国際障害分類					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	13	医療・社会福祉と法律					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	14	地域リハビリテーションと地域包括ケアシステム					教科書や配布資料を読み返す(30分)				
	15	まとめ(リハビリテーションのイメージについて)					試験対策のまとめを行う(30分)				
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。(3)振り返り課題を行う 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	◎					60%				
	レポート				○		20%				
	振り返り課題	○	○		○		20%				
履修上の注意	授業後に振り返り課題を必ず行う事										

科目名	小児科学										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	30時間		担当者	大久保 史子				
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院に医師として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	胎児・新生児・乳幼児・小児期から思春期にかけての疾患・病態、検査、治療についての基本的概念を習得する										
授業形式	講義： ○		演習： △		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				小児の体、発達について理解し、説明できる					
	○	○				小児リハビリテーションに関わる医学的知識を述べるができる					
	○	○				小児の疾患とその後のリハビリテーションの流れについて説明できる					
テキスト・教材 参考図書	医学書院 言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	小児科学概論 ～小児科学とは～					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	2	成長と発達① 発育期の分類					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	3	成長と発達② 成長・発達とその評価					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	4	出生前の因子による疾患① 遺伝子病					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	5	出生前の因子による疾患② 染色体異常症					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	6	出生前の因子による疾患③ 胎芽病と胎児病					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	7	小児神経疾患・精神疾患① 神経系の奇形					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	8	小児神経疾患・精神疾患② 痙攣性疾患					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	9	小児神経疾患・精神疾患③ 神経系感染症、脳腫瘍					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	10	小児神経疾患・精神疾患④ 神経皮膚症候群、変性疾患					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	11	小児の神経筋疾患① 運動ニューロン病、ニューロパチー					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	12	小児の神経筋疾患② 重症筋無力症					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	13	小児の神経筋疾患③ ミオパチー					テキストの該当箇所を読んで、予習復習をする(60分)				
	14	まとめ① 授業内容のワークシート作成					ワークシートを完成させる(60分)				
15	まとめ② 国試過去問					小児科学に関する国試過去問を解き、解説内容を覚える(60分)					
評価方法											
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験		◎	◎				100%			
	小テスト										
	宿題・レポート										
	発表・作品										
履修上の注意											

科目名	学習認知心理学の演習										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	30時間		担当者	大森 晶子				
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	小児施設で言語聴覚士として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	人間の認知の理解を深める。自分たちの認知過程を実習など通して理解する。										
授業形式	講義： ○		演習：		実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△				
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○	○				記憶のシステムと種類について述べることができる					
	○	○				認知システムと思考について述べることができる					
	○	○				トップダウン処理・ボトムアップ処理について説明できる					
	○	○				スキーマ構造、スクリプト構造について説明できる					
テキスト・教材 参考図書	サイエンス社「情報処理心理学」中島義明 参考文献：プリントにて配布										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	記憶のシステムと種類					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	2	ワーキングメモリー					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	3	展望的記憶、プライミング					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	4	視覚のメカニズムと認知					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	5	メタ認知と認知構造					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	6	論理的推論のメカニズムと実習					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	7	確率的判断のメカニズムと実習					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	8	演繹的思考・帰納的思考					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	9	創造的思考と実習					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	10	知覚と認知によるゆがみ トップダウン・ボトムアップ処理					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	11	スキーマ構造と情報処理					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	12	基準・概念・スクリプト構造					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	13	ヒューマンエラー 失敗					教科書の該当部分を読んで復習する(30分)				
	14	復習					復習にて得られた情報を利用しこれまでの内容をまとめておく(30分)				
	15	まとめ					定期試験範囲をまとめておく(60分)				
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(筆記)	◎	○				80%				
	小テスト	◎	◎				10%				
	レポート	○	◎				10%				
履修上の注意											

科目名		言語聴覚療法の評価・診断										
科目名(英)												
単位数		1		時間数		30時間		担当者		専任教員		
実施年度		2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験		言語聴覚士として病院に勤務		
対象学科・学年		言語聴覚学科 2年										
授業概要		言語聴覚療法の評価診断の基本的概念・技能・態度を修得する。										
授業形式		講義：○		演習：△		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)		言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
		○	○				言語聴覚療法の評価診断における基本的概念を説明できる。					
			○	○			コミュニケーション行動を観察する視点を説明できる。					
		○	○				評価診断結果をサマリにまとめる枠組みを説明できる。					
		○	○				言語聴覚障害を総合的に評価し鑑別診断する方法を説明できる。					
			○	○			言語聴覚療法を総合的に評価し鑑別診断する方法を模擬的に実施できる。					
テキスト・教材 参考図書		医歯薬出版株式会社 演習で学ぶ言語聴覚療法評価入門										
授業計画		回数	授業項目・内容						授業外学修指示			
		1	初回面接のコツ						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		2	観察と測定						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		3	観察の理論と演習						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		4	刺激と入力						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		5	標準予防策						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		6	バイタル測定						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		7	STADの手続き						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		8	STADの演習						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		9	小児分野のサマリの書き方						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		10	成人分野のサマリの書き方						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		11	高齢者の評価						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		12	チームアプローチ						内容をノートにまとめる。演習を行う。30分			
		13	論文抄読						論文抄読会の資料を作成する。			
		14	論文抄読会						他の論文を検索、レビューする。			
		15	OSCE評価						フィードバックを参考にし、再度練習をする。			
評価方法		(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
			言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
		定期試験			○			60%				
		小テスト										
		宿題・レポート	○					20%				
		発表・作品		○				20%				
履修上の注意		受講中は積極的にメモを取ることを。思い出す時間を設けてください。										

科目名	音声障害の理解と展開									
科目名(英)										
単位数	1		時間数	30時間		担当者	山口 優実			
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年									
授業概要	音声治療に携わる言語聴覚士に必要な条件(臨床に対する考え方、耳鼻咽喉科その他 の医師との連携、言語聴覚士としての能力)を理解する。 音声治療の実際について学ぶ。									
授業形式	講義: ○		演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標				
	○	○				喉頭の解剖においてそれぞれの部位の名称と働きを説明できる。				
	○	○				呼吸の生理と発声のメカニズムについて説明することができる。				
	○	○				音声障害疾患について発生原因および症状について説明することができる。				
	○	○				音声の評価を遂行することができる。				
	○	○				音声評価診断を行いその症状にあった治療を選び実施することができる				
テキスト・教材 参考図書	建帛社 言語聴覚療法シリーズ「改定 音声障害」医歯薬出版(株) 新編 声の検査法									
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示			
	1	音声障害概論					配布プリントを使用して復習しておく			
	2	喉頭の解剖、呼吸生理					配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく			
	3	喉頭の解剖、呼吸生理					配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく			
	4	発声の仕組(正常発声)					配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく			
	5	発声の仕組(正常発声)					配布プリントおよび解剖学など過去履修科目の共通知識について資料を使用して復習しておく			
	6	音声障害疾患の分類					配布プリントおよび教科書について復習しておく			
	7	音声の評価					配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく			
	8	音声の評価					配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく			
	9	音声治療					配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく			
	10	音声治療					配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく			
	11	音声治療、無喉頭音声					配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく			
	12	無喉頭音声					配布プリントおよび教科書について復習しておく。また、自主演習を実施しておく			
	13	症例検討					症例レポートの内容について調べ深めておく			
	14	症例検討					症例レポートの内容について調べ深めておく			
	15	まとめ					本日のまとめについて国家試験問題を念頭において復習する			
評価方法	(1)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。									
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合			
	定期試験	○					100%			
履修上の注意										

科目名	器質性構音障害の理解と展開											
科目名(英)												
単位数	1		時間数		30時間		担当者		城丸みさと			
実施年度	2021年度		実施時期		後期		担当者実務経験		病院に言語聴覚士として勤務			
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年											
授業概要	小児の言語障害で大きな比重を占める構音障害のうち、器質性構音障害(主に口蓋裂)について学ぶ。器質性構音障害の基礎知識、具体的な検査、指導訓練の基礎を身に付けることを目標とする。											
授業形式	講義:			演習:		実習:		実技:		※ 主たる方法:○ その他:△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標						
	○	○				構音障害の種類について概要を説明し、構音検査が実施できる						
	○	○				器質性構音障害における構音障害の特徴について説明できる						
	○	○				口蓋裂の病態について説明することができる						
	○	○				口蓋裂による構音障害の発現機序について説明することができる						
	○					器質性構音障害の検査後、指導、訓練について基本的な立案と実践ができる						
テキスト・教材 参考図書	教科書 :医学書院 「口蓋裂の言語治療」 岡崎恵子編著 医歯薬出版 「言語聴覚士テキスト」											
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示					
	1	基礎知識:小児の構音障害概説と音声表記復習					構音表記を復習して講義に臨む					
	2	基礎知識:未熟構音と異常構音―その1					構音表記を復習して講義に臨む					
	3	基礎知識:異常構音の種類と特徴―その 2					構音表記を復習して講義に臨む					
	4	口蓋裂の発生と解剖					構音表記を復習して講義に臨む					
	5	口蓋裂の基礎知識:手術と術後の対応					構音表記を復習して講義に臨む					
	6	検査:発声発語器官に関する検査:口腔内視診(演習)					構音表記を復習して講義に臨む					
	7	鼻咽腔閉鎖機能に関する検査					構音表記を復習して講義に臨む					
	8	指導・訓練:音の獲得の段階					構音表記を復習して講義に臨む					
	9	指導・訓練:会話への般化まで					構音表記を復習して講義に臨む					
	10	構音訓練・検査のまとめ(演習)					構音表記を復習して講義に臨む					
	11	鼻咽腔閉鎖機能不全に対応する2次的対応					構音表記を復習して講義に臨む					
	12	口蓋裂治療パノラマ(復習)とその他の器質的構音障害					構音表記を復習して講義に臨む					
	13	その他の器質的構音障害(口腔・中咽頭癌など)					構音表記を復習して講義に臨む					
	14	国家試験の傾向と対策					本日の内容を受けて解説の理解を深めるために調べ学習をする					
	15	まとめ					まとめの内容を復習し、定期試験対策としてまとめる					
評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。											
		言語情報		知的技能		運動技能		態度・意欲		その他		評価割合
	定期試験	○		◎								80%
	小テスト	○		◎								10%
	宿題・レポート	○		◎								10%
	発表・作品											
履修上の注意												

科目名	吃音の理解と展開							
科目名(英)								
単位数	1		時間数	30時間		担当者	仲野里香・久保健彦ら	
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院に言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年							
授業概要	吃音の基礎知識や臨床に必要な基本的技能について学習する							
授業形式	講義：○		演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標		
		○				吃音児者のおかれている状況について考えることができる		
	○					言語聴覚士としての援助の在り方を理解し説明することができる		
		○	○	○		吃音とはなにかを理解し、情報収集(検査含む)、評価および指導・訓練など臨床に必要な基本的知識技能を身につけている		
テキスト・教材 参考図書	学苑社 シリーズ きこえとことばの発達と支援 医学書院 標準言語聴覚障害学 発声発語障害学 三輪書店 間接法による吃音訓練～自然で無意識的な発話へのアプローチ～							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	吃音・流暢性障害の基本的知識					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	2	吃音症状 吃音中核症状とその他の非流暢性などについて					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	3	進展段階 吃音の進展段階について理解する					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	4	吃音児者のおかれている現状を知り、言語聴覚士としてどのように援助するべきか考える					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	5	吃音・流暢性障害臨床① 吃音・流暢性障害臨床の流れ 情報収集					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	6	吃音・流暢性障害臨床② 吃音検査法他					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	7	吃音・流暢性障害臨床③ 吃音検査法他					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	8	吃音・流暢性障害臨床④ 吃音総合評価(症例検討)					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	9	吃音・流暢性障害臨床⑤ 吃音・流暢性障害の指導・訓練法					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	10	吃音・流暢性障害臨床⑥ 吃音・流暢性障害の指導・訓練法					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	11	吃音・流暢性障害臨床⑦ 吃音・流暢性障害の指導・訓練法					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	12	吃音・流暢性障害臨床⑧ 吃音・流暢性障害の指導・訓練法					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	13	吃音・流暢性障害臨床⑨ 吃音・流暢性障害の指導・訓練法					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	14	吃音・流暢性障害臨床⑩ 吃音・指導・訓練法 再評価					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
	15	まとめ					教科書・配布プリントを参考に復習をしておく	
評価方法	①定期試験を実施する②授業内で小テストを実施する③テーマに沿ったレポート作成をする							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験	◎	○				80%	
	小テスト	◎	◎				10%	
	宿題・レポート	○	◎		◎		10%	
	発表・作品							
履修上の注意								

科目名	成人聴覚障害の支援										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	30時間		担当者	星子 隆裕				
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	聴覚障害に対する言語聴覚療法の評価診断および言語治療に関する知識・技能・態度を修得する。										
授業形式	講義： ○		演習： ○		実習：		実技：		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語 情報	知的 技能	運動 技能	態度 意欲	その他	目標					
	○					成人聴覚障害の支援方法について概説することができる					
	○					補聴器、人工内耳の適応例を挙げることができる					
	○					補聴器の調整について概説できる					
			○			補聴器を模擬的に調整できる					
		○	○			聴覚リハビリテーションの計画を立て模擬的に実施できる。					
テキスト・教材 参考図書	教科書：医学書院2020 藤田郁代(監)「標準言語聴覚障害学 聴覚障害学 第2版」										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	聴覚リハビリテーション概論					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	2	聴覚障害の言語治療の基本理念					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	3	コミュニケーションモードの選択					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	4	聴覚補償機器の装用理論					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	5	聴覚補償機器の装用手順と調整					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	6	聴覚補償機器の効果測定					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	7	ボトムアップ聴能訓練					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	8	追唱法による聴能訓練					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	9	コミュニケーションスキルトレーニング					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	10	聴覚リハビリテーション					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	11	障害の全体像、環境条件					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	12	統合と分析、治療計画の作成					評価サマリを作成する(1時間)				
	13	実技演習					他のグループの演習から振り返りを作成する。				
	14	前庭機能のリハビリテーション					授業を振り返り、A4用紙一枚に内容をまとめる(30分)				
	15	ケースカンファレンス					講座全体を振り返り、繰り返し学習する(1時間)				
評価方法	(1)レポートを数回実施する。(2)定期試験(筆記)を実施する。 以下を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験	○	○				70%				
	小テスト										
	宿題・レポート				○		30%				
	発表・作品										
履修上の注意											

科目名	臨床技術学Ⅱ										
科目名(英)											
単位数	1		時間数	60時間		担当者	高津原 直樹				
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	言語聴覚士として病院勤務				
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年										
授業概要	1. 言語聴覚療法の目的における検査・評価・診断の流れを説明できる。 2. あらゆる要因を加味した、言語病理学的診断における根拠を統合して説明できる。 3. それぞれの病態や背景にあわせた、治療目標および計画を立案しその根拠について説明できる。 4. OSCEの実施により、具体的な臨床像を念頭においた取り組みの必要性を理解し説明することができる										
授業形式	講義：△		演習：		実習：		実技：○		※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標					
	○	○				検査・評価・診断の内容を根拠をもって選択し説明することができる。					
	○	○				言語聴覚障害に関わる疾患の病態について説明することができる。					
	○	○				治療目標や計画立案の内容を根拠をもって計画し説明することができる。					
	○	○	○	○		臨床実習後OSCEを通して自分の課題を知り説明することができる。					
テキスト・教材 参考図書	プリント資料を使用します。										
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示				
	1	言語聴覚療法の実践について振り返り/臨床実習後OSCEについて説明					配布資料の内容について30分程度復習しておくこと				
	2	臨床実習報告会実施					本日の発表内容について2時間以上調べ学習				
	3	臨床実習報告会実施					本日の発表内容について2時間以上調べ学習				
	4	臨床実習報告会実施					本日の発表内容について2時間以上調べ学習				
	5	検査・訓練演習(実際に実習で経験した内容をもとにして)					検査・訓練の内容について理解を深めることを目的に1時間程度参考文献を検索し読む				
	6	検査・訓練演習(実際に実習で経験した内容をもとにして)					検査・訓練の内容について理解を深めることを目的に1時間程度参考文献を検索し読む				
	7	臨床実習後OSCEの実施					自主練習を2時間以上行う				
	8	臨床実習後OSCEの実施					自主練習を2時間以上行う				
	9	臨床実習後OSCEの実施					自主練習を2時間以上行う				
	10	臨床実習事後セミナー(検査について)					自主練習を2時間以上行う				
	11	臨床実習事後セミナー(評価について)					自主練習を2時間以上行う				
	12	臨床実習事後セミナー(診断について)					自主練習を2時間以上行う				
	13	臨床実習事後セミナー(訓練内容について)					自主練習を2時間以上行う				
	14	臨床実習事後セミナー(リハビリテーションにおける言語聴覚療法について/ICFの考え方を土台にして)					配布資料の内容について1時間程度復習しておくこと				
	15	まとめ									
評価方法	(1)授業の中で実習報告発表を実施する。(2)レポートを数回実施する。(3)定期試験(実技)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。										
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合				
	定期試験(実技テスト)	○	○	○	○		40%				
	宿題・レポート	○	○				20%				
	発表	○	○		○		40%				
履修上の注意											

科目名	高次脳機能障害の展開						
科目名(英)							
単位数	1		時間数	45時間	担当者	三田 智巳	
実施年度	2021年度		実施時期	後期	担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年						
授業概要	高次脳機能障害の検査や訓練立案ができる。症例レポートの作成法を学び、実習に生かすことができる。国家試験に向け知識の定着を図る。						
授業形式	講義: ○		演習: △	実習:	実技:	※ 主たる方法:○ その他:△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				訓練立案について説明できる。	
	○					検査について説明・実施できる。	
	○	○				国家試験問題を解くことができる。	
テキスト・教材 参考図書	教科書:医学書院、藤田郁代、高次脳機能障害学 第2版、インテルナ出版 荒木謙太郎、言語障害 スクリーニングテスト(STAD)、文光堂 網本 和 PT・OTのための高次脳機能障害ABC						
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	WAIS-Ⅲ 概論				テキストによる30分程度の予習	
	2	WAIS-Ⅲ 言語性検査				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	3	WAIS-Ⅲ 動作性検査				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	4	WAIS-Ⅲ 解釈/実技				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	5	遂行機能障害の検査(BADS)				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	6	遂行機能障害の検査(BADS) 実技				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	7	遂行機能障害の検査(FAB)				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	8	失行の検査(WABの一部、SPTA)				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	9	失行の検査(WABの一部、SPTA) 実技				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	10	失認の検査(VPTA)				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	11	失認の検査(VPTA) 実技				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	12	Vineland II 実施方法				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	13	Vineland II 実施方法				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	14	高次脳機能障害の訓練概要、注意障害の訓練				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	15	記憶障害の訓練				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	16	失行・失認の訓練、遂行機能障害の訓練、認知症の訓練				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	17	半側空間無視の訓練				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	18	全体像に基づいた治療(訓練・指導・支援)の優先順位、プロセス、家族・他職種・地域社会等との連携と医療福祉制度・サービス				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	19	治療効果の測定法、サマリ作成、(症例) 等				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	20	治療のカンファレンス報告、結果のフィードバック(症例)、等				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	21	STAD スクリーニング検査 実施方法				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	22	STAD スクリーニング検査 実技				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
	23	まとめ				Classi・小テスト・授業プリントによる20分程度の復習	
評価方法	成績処理方法: 1.小テスト・クラッシーを3回2.定期試験 3. レポート 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験(筆記)	○	○				60%
	小テスト・クラッシー	○					20%
	レポート	○	○				20%
履修上の注意							

科目名	LD・SLI・環境要因の展開						
科目名(英)							
単位数	1	時間数	45時間	担当者	永野 淳子		
実施年度	2021年度	実施時期	後期	担当者実務経験	小児施設にて心理担当職員として勤務		
対象学科・学年	言語聴覚学科 昼夜間部 2年						
授業概要	LD・SLIに対する評価における分析、見方を学ぶ。それを基にした理解と指導、支援に関する知識・技能・態度を修得する。環境要因が子どもの育ちに与える影響について学び、その支援にあたる場合の知識・技能・態度を習得する。						
授業形式	講義：○	演習：△	実習：	実技：	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標	
	○	○				各知能検査にLD・SLIの特性がどのように表れるか、その分析の仕方を理解し、支援や指導の方法につなげて説明できる。	
	○	○		○		LD・SLIの模擬事例から、分析し、支援・指導について説明できる。	
	○	○		○		子どもの成長にとってマイナスとなる環境で育った場合、どのような影響が生じるかについて説明できる。また、その発生のもとになる要因を理解し、支援について説明できる。	
テキスト・教材 参考図書							
授業計画	回数	授業項目・内容				授業外学修指示	
	1	オリエンテーション; LD・SLIのタイプによる分類と要因の全体像と関連				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	2	LD・SLIのタイプによる分類と一つ一つの要因について				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	3	LD・SLIの現実; 疑似体験・環境から受ける影響; 二次障害について				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	4	学校におけるLD・SLIの子どもへのサポートの仕組みについて				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	5	LD・SLIへの気づき・早期発見・スクリーニング				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	6	WISC-IV～合成得点と各下位検査の意義(言語理解指標・ワーキングメモリ指標)・行動観察				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	7	WISC-IV～合成得点と各下位検査の意義(知覚推理指標・処理速度指標)・行動観察				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	8	WISC-IV～全検査IQとプロフィール; LD・SLIの特性の現れ方				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	9	WISC-IV～模擬事例検討				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	10	知能の理論について				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	11	KABC-II～認知尺度について				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	12	KABC-II～習得尺度について				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	13	KABC-II～プロフィールの見方とLD・SLIへの長所活用型指導				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	14	KABC-II～模擬事例検討				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	15	言語発達の評価(LCスケール, LCSEA)				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	16	LD・SLIその他の検査について				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	17	LD・SLIアセスメントと指導のまとめ				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	18	マルトリートメント～さまざまな要因と支援の基本				該当箇所の予習および講義後の復習をしておくこと(30分)	
	19	マルトリートメント～子どもが出すサインと子どもの行動と育ちへの影響				収集した情報の整理(30分)	
	20	マルトリートメント～児童虐待と愛着障害				評価診断のためのデータの整理(30分)	
	21	マルトリートメント～事例				支援計画書の仕上げ(30分)	
	22	まとめ① 国試過去問の解説を作る				解説作り(30分)	
	23	まとめ② 定期試験対策用まとめシートの作成				まとめシート作成(30分)	
評価方法							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合
	定期試験	◎	◎				80%
	小テスト	○	○		○		10%
	宿題・レポート	○	○		○		10%
	発表・作品						
履修上の注意	1回目、1年時の「発達障害・SLIの理解」の中のLDについての授業資料を読み返しておいてください。						

科目名	運動障害性構音障害の展開							
科目名(英)	Development of dysarthria							
単位数	2		時間数	45時間		担当者	潮崎 桃子	
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年							
授業概要	①運動障害性構音障害についての基礎的な知識を理解するとともに、その知識を診断・治療に生かしていくことができる。 ②専門家として必要な態度について理解し、実行することができる。 ③検査演習や訓練演習を通して、技術を身に着けるとともに、症例を念頭においた技術をみにつける。							
授業形式	講義：○		演習：	実習：	実技：△	※ 主たる方法：○ その他：△		
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				運動障害性構音障害のタイプごとの発生機序を知り問題点を抽出することができる。		
	○	○	○	○		運動障害性構音障害検査についてマニュアルを使用せず実行することができる。		
	○	○				検査結果をもとに発生機序を知り、構音障害以外の症状にも着目し分析できる。		
	○	○				それぞれ症状について発生機序にあわせた訓練立案ができる。		
	○	○	○			基本的な訓練手技について目的を説明することができ、遂行することができる。		
テキスト・教材 参考図書	医歯薬出版株式会社 西尾正輝著 ディサースリア臨床標準テキスト 医歯薬出版株式会社 廣瀬 肇ら著 運動障害性構音障害学 インテルナ出版 西尾 正輝 著 ディサースリア検査							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	講義概要、演習の進め方について タイプごとの病態特徴と重症度のまとめ					該当する教科書の内容をもとに前期内容の振り返りをしていく	
	2	言語病理学的鑑別診断・問診・スクリーニングテスト					教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしていく	
	3	ディサースリアの臨床で行う標準的検査の概要(説明)					自主演習をしていく	
	4	標準ディサースリア検査結果の解釈の仕方(実技演習)発話の検査・呼吸機能 標準ディサースリア検査結果の解釈の仕方(実技演習)発声機能・鼻咽腔閉鎖機能 (2コマ)					教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしていく	
	5	標準ディサースリア検査結果の解釈の仕方(実技演習)口腔構音機能 標準ディサースリア検査結果の解釈の仕方(実技演習)口腔構音機能 (2コマ)					教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしていく	
	6	運動障害性構音障害の評価、検査結果のまとめ方					教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしていく	
	7	検査実技テスト:2人一組にて、テスト概要については事前に説明します。(2コマ)					テストの振り返りをもとに自主演習をしていく	
	8	症例を通して検査演習(結果から症状を検出する)2コマ					教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしていく	
	9	症例検討:問題点の抽出をする(グループにわかれ担当症例について) 2コマ					グループごとに内容を深めていく	
	10	運動障害性構音障害の訓練法(発声発語器官運動へのアプローチ)2コマ					教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしていく	
	11	運動障害性構音障害の訓練法(発声発語へのアプローチ)2コマ					教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしていく	
	12	運動障害性構音障害の訓練法(タイプごとのアプローチ)					教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしていく	
	13	運動障害性構音障害の訓練法(訓練の立案)					教科書および配布資料をもとに復習し自主演習をしていく	
	14	運動障害性構音障害の訓練法(訓練の実施)					実技テストを振り返り自主演習をしていく 考察内容を振り返り内容を深める	
	評価方法	(1)授業の中で小テストを5回実施する。(2)レポートを2回実施する。(3)検査実技テストを実施する。 (4)定期試験(筆記)を実施する。 以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)・B(70点以上)・C(60点以上)・D(59点以下)とする。						
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
定期試験(筆記・実技)		◎	◎	◎			60%	
小テスト		◎	◎				20%	
宿題・レポート		◎	◎		◎		15%	
発表					◎		5%	
履修上の注意								

科目名	摂食嚥下障害の展開							
科目名(英)	Development of dysphagia							
単位数	2単位		時間数	45時間		担当者	八木 智大	
実施年度	2021年度		実施時期	後期		担当者実務経験	病院にて言語聴覚士として勤務	
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年							
授業概要	摂食嚥下障害の理解で学び得た基本的な概念を基に摂食嚥下の問題点を抽出できるようになります。治療計画を立案し訓練を提供できる知識や技術の獲得を目指します。診療技術だけではなく多職種との連携や社会資源などの知識を様々な症例を通して学び、模擬カンファレンスで評価結果や方針を報告することができるようになります。							
授業形式	講義： ○		演習：		実習：		実技： △ ※ 主たる方法：○ その他：△	
学習目標 (到達目標)	言語情報	知的技能	運動技能	態度意欲	その他	目標		
	○	○				摂食嚥下の問題点を抽出することができる。		
	○	○				摂食嚥下に対するリハビリテーション計画を立案することができる。		
	○	○				摂食嚥下障害に対して治療的アプローチ以外の方法を検討することができる。		
	○		○			摂食嚥下障害に対する基本的な訓練技法をクラスメイトに実施することができる。		
		○		○		自らの考えを模擬的カンファレンスや個別レポートの中で表現することができる。		
テキスト・教材 参考図書	教科書：医歯薬出版株式会社、2017 藤島一郎ほか「脳卒中の摂食嚥下障害 第3版 Web動画付き」 医歯薬出版株式会社、2018 聖隷嚥下チーム「嚥下障害ポケットマニュアル 第3版」							
授業計画	回数	授業項目・内容					授業外学修指示	
	1	訓練の概要を知る/口腔ケアと補綴治療の重要性を知る。					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	2	食べる姿勢を考える～摂食嚥下に及ぼす影響を体験する～					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	3	食品調整～食べやすいもの、食べにくいものを食べる～ (2コマ)					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	4	具体的な訓練法について学ぶ～間接的嚥下訓練～ (2コマ)					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	5	具体的な訓練法について学ぶ～直接的嚥下訓練～ (2コマ)					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	6	様々な訓練方法の演習					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	7	治療以外のアプローチ方法を知る					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	8	外科的治療とカニューレの種類、薬物療法を知る					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	9	中間テストの実施と様々な模擬症例について考える授業 (2コマ)					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	10	実践編① ～MASAを使用し評価、訓練を立案する～ (2コマ)					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	11	実践編② ～訓練手技の実技試験～ (2コマ)					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	12	実践編③ 模擬症例情報を基にして模擬カンファレンス (2コマ)					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	13	摂食嚥下障害の倫理について考える授業					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	14	摂食嚥下と介護予防/国家試験に挑む！					教科書の該当部分を復習する(30分)	
	15	クラスメイトが作った国家試験問題を解く！					教科書の該当部分を復習する(30分)	
評価方法	(1)授業の中で小テストを7回実施する。(小テストは当日の授業内容について、中間テストは小テストの内容から実施する)。(2)レポートの提出と発表を評価対象とする。(3)定期試験(筆記・実技)を実施。以上を下記の観点・割合で評価する。 成績評価基準は、A(80点以上)B(70点以上)C(60点以上)D(59点以下とする)。							
		言語情報	知的技能	運動技能	態度・意欲	その他	評価割合	
	定期試験(筆記・実技)	◎	◎	◎			60%	
	小テスト・中間テスト	◎	◎				20%	
	宿題・レポート	◎	◎		◎		15%	
	発表				◎		5%	
履修上の注意								

科目名	評価演習		
単位数	3	時間数	120時間
実施年度	2021年度	実施時期	後期
対象学科・学年	言語聴覚学科 2年		
授業概要	実習指導者の指導の下でリハビリテーションおよび言語聴覚療法の実際を見学すると共に、職業人、社会人としての態度を学ぶことである。		
実習目標	(1)言語聴覚士の業務の流れとその内容を理解し、実習指導者の指導のもと実施することができる。 (2)言語聴覚士が働いている姿を通して、障害を持つ人への対応や職業人としての基本的態度を理解し、実習指導者の指導の下、遂行することができる。 (3)実習を通して、実際の臨床場面を見学し、学生それぞれの学習の到達点を確認し、3年次の臨床実習へつながる個人目標を具体的にすることができる。		
実習計画		実 習 内 容	
	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
	11		
	12		
	13		
	14		
	15		
評価方法	評価演習指導者が学校の定める成績評価の基準によって評価した、実習成績報告点6割 評価実習期間中における学校評価項目による、評価点を4割		
履修上の注意			